

kotonoha

we design your home and life style. impression for life, to you.



VOL.16

本と生きる。

本は、頭と心の栄養になります。
人の傍らで、人生に寄り添う
それは、生きかたです。

取材協力：本と珈琲と酒百間

本を手にするとき、何かしらを期待しています。無意識であっても、知識なり休息なり、そのときに必要なものを得たいと望んでいるはず。そのときにときに必要な本を求めながら、人は生きています。それならば、本は生きかたであるといえるでしょう。本を読まないという選択も一つの生きかたです。個人の本棚には、その人の人生が並ぶこととなります。

かつて本はとても高価でした。中世ヨーロッパでは、本1冊と家1軒の価値が同等だったともいわれます。貴重な本を管理するために生まれたと考えられるのが「蔵書票」。本の持ち主を示す紙片です。ラテン語では「エクス・リプリス」といい、「〜の蔵書」という文言と持ち主の名前が記されています。そこには美しい絵や図案が描かれていて、美術品としても愛されてきました。「紙の宝石」と称される所以です。現代でもさまざまに趣向を凝らした蔵書票がつくられています。木版画やパソコンで手づくりする人も少なくないのだとか。愛する本に蔵書票を貼れば、自宅の本棚がさらに図書室らしくなりそうです。

19世紀前半、イギリスの聖職者であり詩人でもあるシドニー・スミスが言ったとされる言葉があります。——本ほど魅力的な家具はない。たとえ本を開くことができなくても、一文字も読まなかったとしても。——言い得て妙です。必要なときのためにそろえる百科事典や図鑑があれば、鑑賞するための写真集や絵本もあり、持ち主の満足のために手元にあることが重要な本もあります。装丁が美しく、文字どおりにインテリアとして機能することもあります。あなたはどんな本と生きていますか。

2019

本と
生きる。

AUTUMN

HOME SWEET HOME

owner interview
Vol.16



owners now

住宅地のなかに、目を引く洋館がありました。

赤毛のアンやピーターラビットが出てきそう！

わくわくしながら訪ねると…

Kさま邸の書斎にあったのは憧れの本棚です。

書斎の壁三面に 蔵書が収まる本棚。

ご主人 特別に本棚へのこだわりがあったわけではありません。オーダーはシンプル。当時住んでいた家の本棚の本が収納できる本棚がほしい。その希望を伝えただけで、この本棚ができました。

奥さま 私の本やレシビもありますが、ほとんどは主人の本ですね。

ご主人 専門書のほとんどは大学の研究室に置いています。それでもかなりの冊数がありますね。重さに耐えられるようにと、棚板は3cmくらいの厚さにしてくれました。上部の棚の本を取るときは、梯子を使います。1台で充分と思ったのですが、壁ごとに1台あると便利だと薦められて、3台にしました。梯子をあまり移動させなくていいから、やはり便利なのでしょうね。

くん 下の棚には僕の図鑑も…。ほかの本は自分の部屋の本棚に並べています。

奥さま 書斎とピアノスペースを仕切っている壁もちょっと変わっているでしょう？ 石を積み上げたような飾り棚になっていて…。

くん 襟裳岬で拾った鹿の角とか、お父さんの研究対象の植物の化石とか…いろいろ飾ってあるよ。

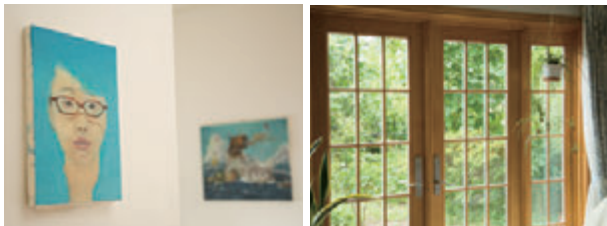
奥さま 私たちが希望したのではなく、主人の持ちものを見て、壁の質感や形、使いかたを提案してくれましたね。

ご主人 その壁と本棚に囲まれて、部屋の中心に机があります。実際に使ってみると、窓から光が入って明るいいし、落ち着く配置だね。気に入っていますよ。

ここの本棚には、研究室の本棚とは違って、さまざまなジャンルの本があります。蔵書リストはつくっていませんし、図書館ほど厳密ではありませんが、ゆるやかに分類はしていますね。このあたりにガーデニング関係の本があるでしょう。その隣の棚には昆虫や動物の本、さらに隣は地学…と自然科学の本が並び、それから社会科学の本があって、ここは小説や映画の本ですね。ざっくりと理系から文系へと並べています。

昭和初期の名建築 旧小熊邸をモデルに。

ご主人 この家にはモデルがあります。それは、札幌にある「旧小熊邸」。北海道帝国大学(現・北海道大学)の小熊捍(まもる)教授の自宅として建てられました。たまたまJR北海道の車内誌で見て、とても気に入ったのです。ろいず珈琲館が営業していたころ、家族みんなでコーヒーを飲みに行きましたよ。建物もたたずまいもよかったですね。家を建てるなら、旧



奥さま 天井の張りかたに特徴があるとか…。

ご主人 天井はクロスではなく、木製の本棚に合わせて羽目板です。大工さんによると、なかなか珍しくて、難しい組みかたらしいですよ。

A: ご主人の書斎の本棚。壁三面の床から天井までを贅沢に使っている。部屋の角にあたる棚は90度に設計していて、デッドスペースがない **B:** 室内には東京の美術大学で現代アートを学ぶ愛娘の油絵も飾られている **C:** 庭を見るために、窓は大きくとっている **D:** ひとつづきのキッチン・ダイニング・リビング。太陽光が燦々と差し込み、明るく心地よい

A

B

C

D

小熊邸のようにしたいと思っていました。

奥さま 板張りの外壁は、ピアスの家では珍しいみたいですね。当時は七飯町に一軒だけで、その見学に行きました。

ご主人 グリーンではなく板材そのままの色だったけれど、完成イメージはつかめたね。

奥さま 外観に合わせて、内装もいろいろと提案してくれました。テキスタイルと壁紙もその一つ。カーテンとクッションの生地だけではものたりないと、リビングの壁の一面だけをウィリアム・モリスの壁紙にすることを薦められたのです。

ご主人 寝室と和室の壁紙もモリスだね。



奥さま 和室の造りはイギリススタイルだと聞きました。出入口は襖ではなくドアで、外側は廊下の壁に合わせて白、内側は室内の色に合わせて茶色です。畳は、私の希望で琉球畳。設えや色をこまやかに調整して、洋館に和室がなじんでいますね。

LDKの位置は 太陽と暮らすため。

ご主人 最初の提案では、書斎とキッチンの位置が逆でした。そこは変更してもらったね。

奥さま 生活とお日さまの動きを同じにしたかったのです。当時は息子が生まれたばかりで、娘が中学生。朝日が差し込むダイニングで朝ごはんを食べる、日中は光が降り注ぐリビングで過ごす…という生活が理想的だと考えていました。この部屋の並びは、まさに思い描いたとおりですね。

ご主人 キッチン・ダイニング・リビングの一体化も希望していたよね。



奥さま キッチンに立ちながら、子どもを見守れるようにしたいと考えていました。それぞれを仕切らないことで、どこにいても家族のつながりを感じられるようにしたかったのです。あとこだわりといえば、リビングの造作家具。キャビネットもサイドボードも

TODAY'S FAMILY



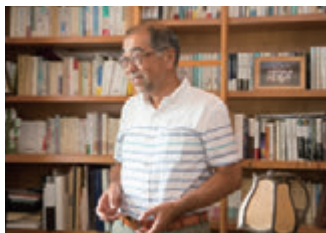
Kさま邸のモデル「旧小熊邸」は、建築家フランク・ロイド・ライトの弟子である田上義也の設計。そのエッセンスを取り入れた瀟洒な家に暮らすのは、ご夫婦と小学5年生の長男1くん、去年のクリスマスに家族となった柴犬クリス。穏やかで優しい両親とたくさんの本に育まれた1くんは、朗らかで聡明です。本が好きで、ピアノとスポーツも得意。人懐こくて美人のクリスとは大の仲良しで、まるで兄妹みたい。どこまでも心地よいKさま邸に、今日もまた太陽が降り注ぎます。

大工さんが粋を集めてつくってくれました。見た目も収納力も満足です。それから、私は背が高いので、キッチンの天板も高めにしてもらいました。

美しく輝く庭と 裏手の緑園通。

奥さま 以前の家は賃貸だったので、そろそろ持ち家がほしいと思っていました。でも、私は戸建てよりはマンション派。屋上テラスのあるマンションがいいと思っていたのです。主人は、大きな庭のある家が理想だったみたいですね。

ご主人 自然が好きですね。それが高じて、仕事にしまったくらいで…。専門分野は地質学。植物の化石を分析して、大地や森林の形成、植生などを研究しています。研究と直接は関係ないけれど、自分の家をもつなら、広い庭のある家がいいと考えていました。



奥さま 希望の土地はなかなか見つかりません。そこでピアスが紹介してくれたのがいまの土地でした。

ご主人 一目で気に入りましたね。94坪あるというので、家を建ててもかなり大きな庭がくれるなど。しかも、家の裏手は緑園通。歩行者と自転車の専用道で車は通らないし、春は桜並木、夏は新緑、秋は紅葉が楽しめます。最高のロケーションですね。

奥さま 殺風景だった庭も草木が育って華やかになりました。シンボルツリーとして植えたアンズの木もすっかり大きくなって。10年の歳月が流れて、庭も息子も成長しましたね。



耳よりアドバイス PLUS + ONE

4 | GOODS&BOOK

“本を読まない人のための本屋さん”の
つい本が読みたくなる話。



WALLMUG



PICTURE BOOK

読書習慣のない人の気持ちはよくわかるけれど、ふさふさの本と出会ってほしいという思いも強いです。本には人生を変える力もありますから。うれしいのは、「普段は本を読まないけれど、この店ではつい本を買ってしまう」というお客さまの言葉。それは、雑貨の存在が大きいと思います。例えば、RIVERSウォールマグの近くに並べているのは、『コーヒーの絵本』『変なお茶会』など飲みものにまつわる本。ドリンクウェアに関心が向いていれば、つい手にとってしまいそうですよね。本との出会いやつきあいは、それくらいの気楽さでいいと思います。雑貨やお菓子は、読書のきっかけにも理由にもなるのです。



店主
上村 佳樹さん

「本はあまり読まないし、読むのは早くない」と謙遜するが、店内に並ぶ本は読了している。

取材協力



本を読まない人のための本屋 wonderful world! / 本好きには雑貨も置いている本屋であり、本を読まない人には本も置いている雑貨屋。店主の上村佳樹さんの「雑貨のように本を手にとってほしい」という思いが形になった店である。店内のPOPは全て上村さんの手描き。本人が読んだり食べたり使ったりした実感を言葉にしているため、それを必要としている人の心に刺さる。贈りものを探して来店する人も多い。

〒 北海道七重浜4-39-1 ☎ 0138-48-5201 🕒 12時12分から23時23分

📍 火曜 🌐 <http://yomahon-wonderfulworld.blog.jp>

📧 @wonderfulworld.yomahon 📱 @wonderfulworld.yomahon

ピアスの現場から

印象に残っている本棚は、階段の蹴込み(踏み板と踏み板の間)を使ったもの。デッドスペースをうまく活用して面白いですよね。本が好きなので、kotonohaの取材でも気になるのは本棚。オーナーさまと大工さんのこだわりにも魅力されます。今度、ピアスワークスで本棚を造るDIYイベントを企画しようかなあ。

LETTER FROM
広報 菅原 正剛



(YORI
04
MICH)

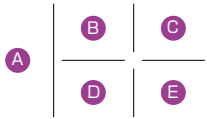
HELLO! HAKODATE!

函館の街でちょっと寄りみち。



SHOP

出会うの店 本と珈琲と酒 百閒



A: 建物は築50年。ガラスの引き戸、その両側に設えられた陳列窓、レンガの腰壁が魅力的なたたずまいをつくっている **B:** 内容は言うまでもなく、レイアウトや装丁などデザインもよい本がそろ。相談すればびっぴりの本を薦めてくれる **C:** 開店5周年の9月、メニューをリニューアル。「一汁三菜ごはん」1200円〜(事前予約制)。小葉は日替わり **D:** 山本さんが好きなものを組み合わせた「豆乳ほうじ茶」600円。ほのかな甘みがあって香ばしい。店舗が函館山にあったところからのロングセラーというのも首肯ける **E:** かつての古書店をリノベーション。入口にあった番台は撤去したが、壁二面の書棚はそのまま活用している

店名の由来は内田百閒

百閒(ひやっけん)にびんとくるのは読書好きに違いない。店名は内田百閒——夏目漱石の門下生で、昭和を代表する文筆家からとった。「お店はさん付けて呼ばれることが多いから、店名を人名にすると面白いと思った」と、朗らかに話すのはオーナーの山本直美さん。内田百閒の数ある作品のなかでも『御馳走帖』が好きだという。これは食にまつわる随筆集で、偏屈だけど憎めない内田百閒の個性が全編を貫いている。

ところで、内田百閒の名前は、彼の故郷・岡山

県の土地に由来する。ちなみに「閒」は「間」の旧字体だ。岡山市を流れる百閒川を毎日犬と散歩しているという人が来店したことがある。店名に惹かれて訪ねてきたらしい。そういう来訪者は少なくない。

山本さんは東京の出版社で編集者をしてきた。蔵書が並ぶ書棚には、さまざまなジャンルの本がそろっている。小説だけではない。「小説は好みが出るから置いていません。コーヒーを飲みながら1篇を読めるようなエッセイが多いかな。日記文学のラインナップを充実させたいと思っています」と話す。

同じ釜の飯を食う大切さ

当世風というと百閒はブックカフェ&バーである。しかし、そう呼ぶのは躊躇われる。「自分と向き合うことも誰かと向き合うこともどちらも大事だから、百閒はそれができる場にしたい」と考えている山本さんの思いが宿っているからだろうか。つくづく「本と珈琲と酒」の店なのだ。「誰かと会話しながら、同じ釜のごはんを食べるって大事だと思うの」と微笑みながら薦めてくれたのは「昭和のナポリタン」。これは、懐かしいだけのスパゲティではない。接客といい、おまけのスパイスといい、人生の1ページに刻まれる忘れたい一皿になるはずだ。

SHOP INFO



本と珈琲と酒 百閒 | 函館市宮前町15-4 [市電「五稜郭公園」停より徒歩20分] | ☎ 0138-76-9270
 ☎ 15時から23時 | 🔥 火曜・水曜 | <http://hyakken.org>

まだむ・マカロンの
アンティキテへいらっしゃい
please come visit...

今シーズンのおすすめ

雑貨 SPICE カービングウッドポット [1296円]

ドリンク 焼栗モカ [500円]

— Cava? お元氣? —
 なんだかもの悲しいと思ったら、もう秋ね…。でも、今日はご機嫌♡ご近所の常連マダムたちが遊びにきてくれて、ちょっとしたお茶会をしたのよ。旅行のみやげ話で盛り上がり、楽しかったわ。ほっこりと過ごしたいときには「焼栗モカ」ね。焼栗とチョコレートのリッチな香りと味わいが、秋って感じよ。コーヒーの苦みと牛乳&クリームの甘みが絶妙で、大人のためのドリンクね。
 この時期は、庭の草木が枯れて寂しくなるでしょ。プリザーブドフラワーやドライフラワー、フェイクグリーンが重宝するわ。そのまま飾るのはあじけないから、「カービングウッドポット」を使ってみて。天然の木を削った花器は、部屋にぬくもりを添えてくれるはずよ。

家具・照明・雑貨とカフェくアンティキテ
 函館市柏木町1-12 [市電「柏木町」停留所より徒歩5分] | ☎ 0138-35-7272
 ☎ 11時から19時 | 🔥 火曜・水曜



いつも
ちょっと
いい日々。

第4回

“ 2種の
デザートソース ”
 ハウレット農園では、農業や除草剤を使わず、自然の力で果実を育てています。ブルーベリーの木の根元にあるのはミツバチの巣箱。役割は受粉です。7月上旬に7種類のブルーベリー、7月下旬から8月末に原種のブラックカシスを手摘み。1kgずつ銅鍋で煮込んで「デザートソース」をつくります。原料は果実・てんさい糖・グラニュー糖・有機レモン果汁。さわやかな酸味とすっきりとした甘さは、濃厚なバナナアイスやチーズケーキ、肉料理にぴったりです。



ちょっとよくする人 | ハウレット農園
 教育者ピーター・ハウレットが、1986年にカナダからブルーベリーを導入して栽培をはじめた。1990年、ハウレット農園を開園。2013年、息子のハヌル・ハウレットが園主となり、7種類のブルーベリーに加えてカシスの栽培をはじめた。 <https://www.howletfarm.net>

PUBLISHED BY



株式会社ビアスワークス お問い合わせ 0120-56-0188
 042-0942 函館市柏木町1-12 T:0138-56-0555 F:0138-56-0777

ORIGINAL BRAND
 FRANCHISE BRAND

Norm Core House / b-maison / b.i.v HOMES
 Inter Déco Haus / COZY